

鏡川流域パートナーシップだより No.256 R7.12.9



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

「熱血・鏡川流域関係案内人」と一緒に「どぶり」ました！

「どぶり」…「川に入る、飛び込む」といった意味を表す土佐弁

12月6日(土)に、取材イベント【土佐山に行って、みんなの山中さんに取材させてもらおう】を行いました！取材したのは、「熱血・鏡川流域関係案内人」として、鏡川流域の自然と人をつないでいる山中晶一さん。土佐山平石区(鏡川上流域)の区長を務めながら、土佐山地域の消防団員を30年継続。さらに、毎週木曜夜のオンライン交流会の進行や鏡川の水質調査(溪流釣り・沢登り)など、日々、鏡川流域に熱い関わりを寄せています。

今回は、鏡川流域関係人口講座2期生の川田玄一さん(東京都在住)にもご参加いただき、総勢6名で鏡川上流域の水源地を訪問し、取材を行いました！

取材の様子は、今年度末に発行予定のコミュニティブック「関係案内ブック」の記事としてお披露目の予定です♪



①山中さんから平石区の暮らしについてのお話を伺いながら、旧・水道管理道に向かいます。



②人が通らなくなって荒廃した旧・水道管理道には、住民に水を供給していた水道管が残っています。



③伐採した木々を燃やすための炭焼き場を確認。かつての住民が生活を営んでいた歴史に思いを馳せます。



④ロープを使いながら、木を掴み、地面を滑って先に進みます。自然の持つエネルギーや命の尊さを全身で感じました。



⑤やっとのことで旧・水源地に到着！かつては日常的に利用されていた水道管



⑥「ぼっちり」ユーザーの「Sukebay ーす」さん(65歳)は、骨折完治後にも関わらず、颯爽と山を歩き、旧・水源地に到着。



⑦旧水源地から、現在使われている水源地に移動し、みんなで一緒に火をおこして暖を取ります。



⑧水源地の水を使ってコーヒーやカップラーメンを作り、みんなでいただきました！鏡川の水の恵みに改めて感謝♪



「荒れた水源地に踏み入る理由は、自然を語りたいからではなく、先人が切り拓いてきた人と自然の境界線にどぶりたいたから」と語る山中さん。その言葉のとおり、今回、少し非日常な環境にみんなで「どぶり」ことで、新たな気づきを得ることができました。

「当たり前の今日(日常)は、愛おしすぎる非日常の連続。そんな日常が1番美しい」と山中さんは言います。そこにある自然に目を向けること、自分も自然の一部である気づくこと。そこから生まれる可能性について、山中さんと鏡川流域の自然から教わったような気がします。



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android